

第1B分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題「学力向上に向けた学びの環境づくりと授業改善への教頭の関わりについて」

都城支会 都城市立夏尾中学校 堀 博文

1 主題設定の理由

「みやざき小中学校学習状況調査」や「全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）の結果から、本市における小学校及び中学校の学力の現状は、満足できる状況とは言えない。同様に庄内・西岳・夏尾地区における学力の現状も地区ごとに差はあるが、各小中学校において学力向上が喫緊の課題の一つである。また、規模が小さな学校が多く職員定数が少ないため、同僚性が発揮しにくく、児童生徒の実態に応じた指導方法や授業の在り方について職員間で話し合い、改善していく機会が十分でない面もある。さらに、教頭として学力向上に対し、共通した指導や支援が十分に行えていないという状況もある。

そこで、教頭が GIGA スクール構想に関わる学びの環境づくりと学力向上の核となる授業の改善へ積極的に関わることで、本地区の児童生徒の学力向上を図ることができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

庄内・西岳・夏尾地区における児童生徒の学力の課題を踏まえ、教頭が学びの環境づくり、授業改善に積極的に関わり、児童生徒の学力向上を図る。

3 研究の概要と成果

(1) 研究の内容

① 学力向上に向けた学びの環境づくり

ア ICT 活用の環境づくり

イ ICT 活用

② 学力向上に向けた授業改善への関わり

ア 主題研究での関わり

イ 授業支援

(2) 研究の実際

① 学力向上に向けた学びの環境づくり

GIGA スクール構想に基づく1人1台の端末と高速通信環境の整備が行われ、ICTを活用した学習の取組が喫緊の課題となった。そこで、ICT活用のための環境づくりに取り組むことにした。

ア ICT 環境づくり

西岳・夏尾地区では学校が小規模であり、児童生徒交流のため、集合学習（N N学習）を行っている。将来的には ICTを活用した交流も行っていく予定である。

そこで、ICTの活用に関して、ブロック担当者と連携し、次のような手順で環境づくりを行った。

(ア) ICT連携環境の整備（教頭会）

- ・ 目的、役割分担、ルール

(イ) ICTの活用（ブロック担当者会）

- ・ Classroom 設定、活用
- ・ Google Meet を使った交流授業での3校共通の校時程

(ウ) 学校の連携、授業（授業者）

- ・ Google Meet を活用した授業者の情報交換、打合せ

- ・ Google Meet を活用した交流授業

(エ) ICT活用の課題、技術的問題等

の整理と情報交換（全員）

イ ICT活用

(ア) 学校間の打合せ

これまでNN学習の打合せを集合して行っていたが、Google Classroom Meetを活用することにより、打合せの回数(時間のロス)が減った。また、Meetの操作についても深めることができた。

(イ) 学校間の交流学习

NN学習校時を活用し、各学年1時間ずつ行った。十分、交流できたが、活用の仕方、技能について課題もあがった。回を重ねるごとに精度が上がるように反省をまとめている。

2校時 5・6年 モニター、個人

3校時 1・2年 全体モニター

4校時 3・4年 グループ別



【1・2年交流の様子】



【5・6年交流の様子】

② 学力向上に向けた授業改善への関わり

新学習指導要領となり、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点からの授業づくりを求められようになった。そこで西岳小では教頭が資料の提示、アドバイスを次のように行った。

ア 主題研究での関わり

○ 授業進行表

児童主体で学習を進めるための理科、算数科の進行表のモデル提示

○ 全国学力テスト問題の分析

問題の傾向と対策、授業のつながりの資料作成

イ 授業づくりの支援

○ 主体的・対話的で深い学び

友達の考えについて、児童自身が観点をもって主体的に話し合う学びの方向性のアドバイス

○ 単元全体を通した「めあて」

教科書を教えるのではなく、単元全体を通してどんな力を身に付け、何ができるようになるのかを明確にした授業づくりの資料提示

(3) 研究の成果

○ NN学習を前提としたICT活用の基盤ができあがり、オンラインを活用した打合せ、交流授業が行われるようになった。

○ 新しい学力観に基づく授業支援を行ったことで、目的のぶれない授業が行われるようになってきた。

4 今後の課題

(1) ICT活用については、技術面、授業での活用について、出てきた課題を集約、改善し、高めていくシステムを構築していく必要がある。

(2) 学力向上の柱は授業であり、これから求められる学力観に基づいた授業づくりとICTの活用をセットにした方向性がぶれない支援を行っていく必要がある。